


第187回 都市懇サロン レポート	『都市の公共オープンスペースのリノベーション ～その活用にむけての官民連携とデザイン手法』		
講 師	芝浦工業大学 システム理工学部 環境システム学科教授 中野 恒明	開催日	平成26年12月09日(火) 18:00～20:00
講 師 プロフィール	1974年 東京大学工学部都市工学科卒業 1984年 (株)アプル総合計画事務所設立 代表取締役 2005年 芝浦工業大学システム工学科 理工学部環境システム学科教授 (兼職)		
お話の概要	<p>主に三点の内容から、ご紹介いただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまで行なってきたことー実践の軌跡、人の気配のする公共空間を目指して <ul style="list-style-type: none"> <li>・中野講師が携わってきた事例を紹介していただいた。(事例：鹿児島みなと大通公園、門司港、出雲シンボルロードなど)</li> <li>・新宿モア街での公道上のオープンカフェ等による収益をまちづくりに還元した事例。</li> </ul> </li> <li>○今世界の主要都市でなにが起きているのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■アメリカ諸都市における公共空間の新しい風 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニューヨークにおける PPS(Project For Public Spaces)+BID(Business Improvement District)</li> <li>⇒ ブロードウェイ (タイムス・スクエア) や、ブライアントパークを事例に公共空間に移動式のテーブルやベンチを設置し、公共空間のオープンスペースの活用を行なっている。</li> </ul> </li> <li>■・パリ・シャンゼリゼ通りのオープンカフェ <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ シャンゼリゼ通りに面する 1 階部分に飲食店舗を営むものが営業し、歩道の持つ商業的価値と対応した利用料を徴収し、まちづくり活動の費用に当てられている。(他、スプリット (クロアチア)、デュッセルドルフ (ドイツ)、シェアードスペース等の事例紹介)</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○わが国の公共空間活用に向けて <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜日本大通り・オープンカフェ、広島水辺カフェ、名古屋・街路木質化プロジェクト社会化実験等の多くの事例を紹介。</li> <li>・オープンカフェは成功するのか。法律の問題なのか。都市計画に内在する問題としては、都市居住が浸透するのか。そういったことが考えられる。</li> </ul> </li> </ul>		
意見交換の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成功例と失敗例の違いはあるのか。⇒ヨーロッパの場合は、オープンカフェを利用される方(高齢者)が多くみられる。日本とは、生活スタイルが違う。博多の屋台は成り立っている。新宿もオープンカフェは赤字、そのためイベント等で収益を出している。また、物販(クレープ)で黒字化されている。</li> </ul>		
記録者のひとこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な事例を紹介していただき、参考になった。都心居住が広がれば、まちなかを観光客以外の方への使われ方も深められ、オープンカフェ等の恒常的な実現もあると感じた。また、2020年の東京オリンピックに向けて外国人をもてなすことができる様々な事例が必要と思う。《都市懇サロン運営部会 委員 島津 雅充》</li> </ul>		